

タブレットに込められたもの

本校では、登校後の八時から朝読書に取り組んでいます。しかし、タブレットのタイピングの練習を位置づけようということで、毎週水曜日の朝読書の時間をそれに充てることとしました。

今日もタイピング練習に取り組みました。やはり現代の若者です。キーボードを前にした生徒たちは、黙々と練習に取り組んでいます。二期に入ってから取り組みですが、集中的に数回練習しただけで、ずいぶん上達したという声も聞こえてきています。

日常生活や授業においても、積極的にタブレットを使っています。ノートとして、辞書として、そして、ドリルや問題集として使えるタブレットは、あつという間に生徒たちの必須ツールとなっています。コンピュータ室に足を運ばなければならなかった頃と比べると、生徒たちの学習や生活は、タブレットによって大きく変化したと言ってもよいでしょう。

一方で、タブレットが関係する悲しいできごともあります。昨年十一月、東京の町田市で小学六年の女子が自殺しました。遺書には同級生からのいじめが記されていました。

そのいじめは、小学校に配備されたタブレット端末のチャット機能を使っても行われており、「うざい」「きもい」「死んで」などの女児に対する悪口がやりとりされてきたとのこと。便利なタブレットが一変して、人の心を傷つけ死に追いやる凶器となってしまうました。タブレットを使用する生徒の皆さんにとっては、「ある日突然手元にやってきたタブレット」ですよね。一人一台ということで、「ラッキー」と思った人も多いのではないのでしょうか。どういいういきさつでタブレットが皆さんのところにやってきたか、わかる人はどれくらいいるのでしょうか。

子どものころからICT環境になじみ、将来の社会で生き抜く力を育むために、一人一台の端末環境を備えた学校のあり方を国が推進していくという「GIGA(ギガ)スクール構想」という施策から支給されたのが、今皆さんの手元にあるタブレットです。簡単に言うと、これからの時代を生き抜くための力を身に付けさせたいと国が考えたわけです。おまけに、コロナ禍ということ、その導入が前倒しになって、予定より早くタブレットがやってきました。「前倒し」とひとこと言ってしまうますが、そこには大変な苦労があったのだと思いますよ。

中学生にもなれば、自分に支給されたタブレットの本来の目的を、しっかりと受け止めた上で使うべきですよ。目的外の使用、無責任な管理は絶対にしてはなりません。大きな予算が投入され、大きな期待や多くの人の苦労が込められたタブレットなのですからね。

